

■■■ 「多文化共生」を考える研修会2014開催 ■■■

今年で14回目を迎える「『多文化共生』を考える研修会2014」が8月18日～25日のうち4日間にわたって開催されました。初日の会場は国際健康開発センターで、最初の題目は【「多文化共生」社会に向けて】でした。参加者は92名で、冒頭、主催者代表としてKFC金宣吉理事長より挨拶がありました。

プレゼンターは現在日本で活躍中のファッションモデルのK E L L Yさん、コーディネーターは兵庫県立大学環境人間学部乾美紀准教授でした。

ケリーさんは1984年ブラジル、サンパウロに生まれました。父親は日系二世で母親はイタリア系ブラジル人です。日本で単身働いていた父親を頼って彼女が14歳の時、一家は日本に移住しました。

女性ファッション誌やCMなどで人気モデルとして現在活躍されているケリーさん。しかし、現在の華やかな成功を得るまでにはたくさんの苦勞がありました。

K E L L Yさんは、来日当時、日本語を全く理解出来ませんでした。学校にも行きたくありませんでした。工場の組み立てラインで毎日厳しい勤務に耐えました。コミュニケーションがとれず、長時間労働させられたり、バカと罵倒されたり、たたかれたりの辛い日々を過ごしました。モデルになろうと決心し群馬の田舎から東京に出て来ましたが、体重コントロールが出来ずモデルにはなれず挫折し、ブラジルに帰国してしまいました。半年後、再度、来日しチャレンジしました。キックボクシングとヨガをとり入れたストイックな生活により8キロの減量に成功しました。身振り手振りでコミュニケーションをとり、日本語はTVや音楽で勉強し、漢字はカラオケで覚えました。彼女は「過去の辛苦や失敗が現在の成功に結びついている、大切なことはインスパイヤ、信念、感謝、自信、壁をつくらないことである」と、言っています。私は、彼女の飾り気のない、明るいキャラクターやアグレッシブな精神も成功に寄与したことと思います。

興味のある方は、彼女の自叙伝「だからあなたもがんばって！～日系ブラジル人の子どもが夢を叶えるまで～」を購読して下さい。学生時代一年間ブラジルに遊学したことがあるのでK E L L Yさんの成功を身近に感じます。

K E L L Yさんの講演は、皆さんに外国にルーツを持つマイノリティがぶつかるコミュニケーションの困難や異文化の壁について理解を与えてくれたことでしょう。本当の「多文化共生」社会の実現の一步となったと確信いたします。（ニュース係 吉村 晴夫）

『いっぽ』からひろがり、つながる松阪市の外国人児童生徒教育～学校・地域・行政の協働による教育の創造をめざして～に参加して

「多文化共生」を考える研修会の3日目である8月22日に海外移住と文化の交流センターで、上記の研修会が開催され、スタッフを含め69名の参加がありました。講師は、松阪市教育委員会事務局人権まなび課指導主幹の小筆邦昭氏でした。非常に参考になる内容であり、現場に携わっている出席者からも多数の質問がありました。

松阪市には現在、約4000人の外国人住民が住んでおり、市の人口の約2.4%を占め、その数は、最近毎年増加しています。内訳は、フィリピン人が約60%を占め、その後、中国人、ブラジル人となっています。市内の小中学校に在籍する外国籍児童生徒数は2014年で221名で、その内、日

本語指導が必要な児童生徒は204名となっています。

外国人児童生徒の増加に伴い、2005年に、「教育を受ける権利の保障」をめざして、児童生徒・保護者・教職員を対象にアンケートを実施し、2007年に「外国人児童生徒の人権にかかわる教育指針」を制定し、その後、状況の変化に伴い、2013年にその改定を行っています。

具体的な取り組みは、実施体制として、大学、市、県・市の教育委員会、松阪市国際交流協会、受入校で運営協議会を作り、受入体制として、受入ガイドブックの作成、個票・指導計画の作成、学校行動計画、国際教室経営計画の作成、支援者（母語スタッフ）・学生ボランティアの活用などの整備を行い、J S L (Japanese as a second language) カリキュラムに基づくわかりやすい授業づくりの実践研究（教科指導型日本語指導）を経て、2007年に初期適応支援教室『いっぽ』を開設しています。

『いっぽ』教室では、市内の小中学校に在籍（原則、小学校2年生以上）のひらがな・カタカナの読み書きができない、基本的な日常会話ができない児童を対象に、月曜日から金曜日の8:35～11:00の間、ひらがな・カタカナ・小学校低学年の漢字の読み書きや日本語による日常会話や日本の生活・文化等について教えています。学習期間は約4カ月ですが、7カ月の児童もいるようです。教材は三重県国際交流財団作成の「みえこさんのほんご」と、指導案集、個人ファイル、連絡帳などを活用し、教室・受入校・保護者との連携で推進されています。地域のボランティアにもかなりの部分支えられている面もあるようです。2007年5月から今年8月までの通級生徒総数は257名となっており、2013年で47名、現在の教室では19名となっています。

また、次年度小学校入学予定児童で、ひらがな・カタカナの読み書きができない、日本語による簡単な受け答えができない子に対しても、ひらがなの読み書き、学校で必要な物の名前、学校のきまり、教室で使う言葉などを教える就学前支援教室『わかば』を2011年1月から開設しています。

成果もかなり上がっていますが、今後の課題として、『いっぽ』『わかば』の地域ボランティアも含めた運営体制や指導内容の充実等もありますが、更に、外国人児童生徒が夢と希望を持って学習に励めるよう、進路・学力保障の充実、モデルとの出会いなど、キャリア教育も充実させることを挙げています。（ニュース係 川淵 啓司）

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆7月26日研修会の報告

7月26日午後、猛暑の中、文化庁委託事業の一環として「研修会（日本語学習記録簿の活用—自律学習に導く第一歩として）」を神戸国際協力交流センター会議室にて行いました。日本語教育専門員、ベテランの日本語ボランティア、初心者日本語ボランティア、KFCスタッフなど14名の参加がありました。

始めに1分間自己紹介をした後、グループに分かれて自律学習について知っていることや疑問点などを出し合いまとめました。学習記録簿をどのように活用すればいいのか、学習者に対して自分の役割は何なのか、そもそも学習者自身が何か目標をもって来ているのか、それぞれ自分の経験に照らし合わせて様々な意見が出ました。

次に青木直子先生が自律学習の概要について講義を行いました。

ずばり「自律学習とは何か」——「学習者が自分で自分の学習をデザインし、実行し、評価するような学習の形」です。

そして自律学習の利点、自律学習のサポートの仕方、自律学習をサポートするツールとしての学習記録簿についての講義がありました。始めにグループで意見をまとめていますので、それに沿った講義となりました。

その後、KFCでのこの1年間の学習記録簿の取組と大阪府八尾市の「とっかび」グループの取組の発表をし、KFCが昨年度に作った学習記録簿の説明をしました。最後にそれぞれ今日の研修会について用紙に書いてまとめる時間をとりました。

知識詰め込み型の語学学習を経験してきた私にとっては、自律学習を理解すること、それを行うことは少々難しいかもしれません。しかも私たちがそういう方法に接してきていないので、取り組むにあたって試行錯誤にならざるをえません。したがってこの研修会で参加者と一緒に取り組んでいこうと思っています。

日本語の語彙や文法の基礎は教室で学習できるかもしれませんが、しかしいつまでも教えてもらわないと新しいことがわからないのでは困ります。特に新語が毎年出てくる日本のことばは、習得方法を自分で得ることが必要であると考えます。

今回は10月25日（土）を予定しています。短い期間では目に見える成果や意義は見出しにくいかもしれませんが、それでも「千里の道も一歩から」。これって語学学習に通じるところ、ありませんか？

#### ◆「ゆかた&茶道体験」の開催

7月30日に、KFC事務所内で「ゆかた&茶道体験」を実施しました。ゆかたの着付け体験の交流会は久しぶりで2005年の日本語ティーパーティー（七夕祭り）で行って以来で、お茶会は昨年10月に続き2回目です。日本語の学習者、家族の方、お茶をたてる方、着付けの手伝いのサポートの方、午後2時からはデイサービスセンターハナの会のご利用者・スタッフの方も来られて、併せて40名が参加し、楽しい時間を過ごしました。ゆかたを着たのは、フィリピン、中国、韓国、ベトナムから来ている女性の方7名で、初めて着る方がほとんどで、皆さん大感激していました。その後、櫻井久子先生のお茶の作法の説明を聞きながら、全員がお抹茶と和菓子をいただきました。（ニュース係 川淵 啓司）

#### ◆「ベトナム料理+のどじまん会」

子どもたちの夏休みも最後に迫った8月30日、ベトナム料理店のハーロンで、「ベトナム料理+のどじまん会」と題して、交流事業を行いました。ハーロンにはベトナムの歌のカラオケができる設備が整っていますが、この企画のために、日本の歌のソフトも仕入れてもらいました。

参加者は30名、日本（系？）13名、ベトナム（系？）17名で、ベトナム語なしでは会が進みません。スタッフのハティタンガが司会をして、6時40分頃始まりました。今回の目的を両国語で話した後、乾杯！生春巻や揚げ春巻き、サラダなどのベトナム料理に舌鼓をうち、まずは食べるから、という間もなく歌の伴奏は次々と流れてきます。というより司会のことばで始まる前に、既に有志が歌っていました。ベトナム人の歌好きは噂では聞いていましたが筋金入りです。ベトナム人Aさんが「酒よ」を歌い、日本人Bさんがベトナムの歌を歌い、懐メロが主ですが、最新曲も少し、ベトナム人男性陣も自慢の歌を披露していました。

途中、参加者に今日の感想を聞きましたが、来日45日のベトナム人の方はこういう交流の場に参加できて嬉しいと言っていました。新しい出会いをお互いに楽しんで、午後9時に散会となりました。（奥 優伽子）

---

#### ■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

##### ◆夏休みの工作教室～風鈴を作ろう～

8月6日（木）に夏休みの工作教室を行いました。KFCで学習している小学生12名が参加しました。

駒ヶ林小学校の山本先生が講師としてきてくださり、夏らしく風鈴を作りました。

まず先生から色の紙粘土を使った作り方の説明がありました。その後、子どもたちは思い思いに風鈴づくりを始めたのですが、通常の学習時間とは全く違う集中力にびっくりしました。話しながらでも想像力豊かで、立体的な風鈴がどんどんできあがっていき、とても楽しい工作教室となりました。

#### ◆夏休みの交流事業

8月3日から実施していた福島県の子どもと保護者のための保養事業に参加している子どもたちとKFCの子どもとの交流を、8月7日（木）にしあわせの村にて行いました。

新長田からしあわせの村への直行バスに乗るはずが時間を間違ってしまったため、近くのショッピングセンターで時間を潰すことになりました。すると、持ってきていたバス代を買い物に使ってしまい、バス代がない！という子がでるなど、最初からバタバタでした。

到着後は、自己紹介をして、一緒にそうめんとスイカの昼食を取りました。

その後、研修ホールで、DANHさんによるマジックショーがありました。KFCの子どもも一緒にマジックに加わり、皆、大変楽しめました。

子どもたちは、その後、屋外で、野球やバトミントン等を大学生のスタッフなどと一緒に楽しみ、子どもたちが遊んでいる間に、福島県の保護者の方たちからKFCのボランティアスタッフが福島の実状などを少し聞かせて頂ける時間も持てました。

滞在時間があまり長くとれず、残念そうな子どももいましたが、お互いを知る良いきっかけになりました。（志岐 良子）

---

### ■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

#### ◆暑気払いを兼ねた料理教室の開催

2014年7月22日にKFCの主催で新長田駅のピフレホールにおいて、帰国者の料理教室が開かれました。一世と二世を含めて50人以上の帰国者たちが参加しました。

買い物は二世ボランティアの方に担当してもらいました。今回の料理の特徴は中華風と西洋風があったことです。具体的なメニューは以下の通りです。帰国者の中にイスラム圏の方がいますので、トマト煮込みは豚肉のかわりに牛肉を使用しました。

- 1、水餃子(木耳入りスープつき)
- 2、沖縄風サーターアンダーギー
- 3、キャベツと牛肉のトマト煮込み
- 4、焼き小籠包

帰国者の皆さんは餃子の担当で、日本人の支援者の方たちはキャベツと牛肉のトマト煮込みの担当でした。餃子の具は村井健司さんに作ってもらいました。本場の中国東北風の具材でした。私にとっては、初めての東北風餃子でした。私は中国北部の出身ですが、帰国者たちの手作り餃子を食べると、やはり故郷の味と違うと感じました。中国といたら、外国の方がよくこのように語ります。「中国は広くて、南北で文化は違いますね」。中国を研究している研究者たちも、南北の文化の相違を十分に意識しながら、ある地域を選んで、地域研究します。今回の料理教室を通して、筆者が同じ中国の北部であっても料理の味は違うと実感しました。

また、日本人の支援者の方たちの担当したキャベツと牛肉の煮込み料理については日本の家庭料理の変容という感想がありました。留学生の私にとって、刺身、すしなど魚をベーシックとしている和食が一般の家庭料理で、チーズ入りのトマト煮込みの料理は西洋料理であるはずだと思

っていました。現在、日本全国で世界各地のエキゾチック料理店が見られます。特に、海港都市の神戸ではベトナム料理、タイ料理、インド料理といったアジアの料理店だけではなく、イタリア料理、フランス料理のような洋食店も町の随所にあります。外の料理店で外国のシェフにエキゾチック料理を提供してもらうことは一般的だと思いますが、今回のトマト風の料理から、洋食風の料理が日本の家族までかなり浸透していると日本の家庭料理の変容の一角を伺いました。

更に、今回の料理教室は皆さんの協働力を感しました。実は当日の料理の内容は事前に計画した内容と違いました。料理当日に突然メニュー変更がありました。50人分の餃子を皮から作り始め、また、キャベツを一枚ずつ牛肉の上にかぶせて煮込むことは相当時間がかかりそうな作業ですが、皆さんの協働作業のおかげで1時間半でおいしい料理が出来上がりました。

いつも冷凍の餃子しか食べられない私にとって、手作りの餃子を食べられることは相当贅沢なことでした。帰国者の皆さんと日本人の支援者の方たちに感謝したいです。どうもありがとうございました。最後に材料を付け加えます。お時間がありましたら自宅でも料理を楽しんでいただきたいです。（胡 源源）

<材料>

キャベツと牛肉のトマト煮込み：

キャベツ、バラ豚肉、バラ牛肉、コンソメ、トマトピューレ、味の素塩、コショウ、粉チーズ、  
トマト

沖縄風サターアンダーギ：

サラダ油、バター、砂糖、卵、ベーキングパウダー、小麦粉

---

## ■■■ ハナの会 ■■■

### ◆ヘルパーの思いとハナの会夏祭り2014

私は8年前にペルーから来た塚本澄子です。日々日本語の壁を克服ながらハナの会でヘルパーとして働いて3年になります。

私はデイサービスセンターのイベントが利用者さんに元気と明るさを届けるため、そして自分達に自信を持ってもらうために開催されていると思います。私達みんなも年をとっていき、人の手を必要とする時が来ます。ですから、今利用者さんの為にできることをしたいです。元気と明るさ。私も明るい性格で対応をしたいです。大切な命なので、命を大切にしたいです。

7月9日（水）と7月11日（金）はデイサービスの利用者さんを喜ばせるため夏祭りをしました。午前中は全員で短冊に願いごとを書き、スタッフが山から持ってきた立派な笹に飾りました。午後はスタッフが考えたプログラムが行われました。一番目に理事長が七夕の話をまじえて挨拶しました。二番目に調理担当の趙によるバイオリン演奏がありました。三番目に大正琴グループによる本格的な演奏がありました。四番目に2人のスタッフによるデュエットで皆を笑わせてくれました。男性スタッフは濃い化粧をし、女性スタッフはスーツを着てとても面白かったです。五番目にボランティアの忠津さんが皆と一緒に風船リレーをしてくれました。最後に皆で歌って踊って（利用者様による炭坑節の歌と踊りの指導もありました）甘いスイカのおやつを食べました。利用者さんには元気がとどいた感じでいっぱい笑ってくれました。（塚本 澄子）

---

## ■■■ ブループホーム・小規模多機能居宅介護ハナ ■■■

### ◆合同夏祭り

8月12日（火）に小規模とグループホーム合同での夏祭りを行いました。ご家族様にもご案内させて頂いた所、「娘（利用者さまからするとお孫さん）が楽しみにしています。頑張って宿題が早く終わるようにしていますので是非参加させて頂きます」と嬉しいお返事も頂く事ができました。

普段はピンクのシャツにトレパン姿のスタッフも浴衣に着替えてビックリされた利用者さんもおられるのではないのでしょうか。台風が去った翌日に利用者様に炭坑節を教えて頂いて練習をしたのですが、その成果も虚しくハチャメチャな踊りとなってしまいました。来年はリベンジしたいと思いますので期待して下さい（苦笑）。

せっかく夏祭りをするのだったら飾りつけをしようと思い、インターネットで調べてみると（便利な時代になりました）、簡単にちょうちんが作れる事がわかりグループホームの利用者さんと一緒に作る事にしました。スタッフよりも男性利用者さんの方が手先がとても器用だったり、丁寧にされる様子を改めて発見する事ができました。参加者の数のちょうちんができたのでおひとりずつ名前を書かせて頂いたのですが、自分の名前を見つけると「あった」「私の名前だ」と喜んで頂けたのではと思っています。

メニューは相談の結果、から揚げ・焼きそば・キンパ・アメリカンドッグ・サラダ・かき氷と決めて、朝早くから、スタッフたちが心を込めて作りました。小規模・グループホームと同じ建物内ではありますが、日ごろはあまりおしゃべりする機会が少ない利用者様たちも、お互いに話しかけていたり、スタッフとのおしゃべりも楽しみながらのお食事となりました。

「夏祭り」と言えば「スイカ割り」。「スイカ割り」と言えば「夏」という事で大きなスイカを用意しました。「これって飛び散ったらどうする？」と少し心配もしましたが、そうそうあたるものではなくちょっぴりスイカにあたる程度でしたが、皆さん「左、左」「もうちょっと前」など声をかけたりあちらこちらで笑いごえがあがりました。このスイカは翌日に分けて胃袋に入ったのは言うまでもありませんが・・・。あんまり甘くなかったなあ～。

他にも輪投げ、ダーツとゲームを行いました。ゲームと言えども皆さん真剣で（負けず嫌い？）あちこちから歓声や溜息もありましたが、お互いに拍手をしたり「頑張ってる」の声が上がっていました。総合優勝は許点伊さんでした。これまたスタッフが手作りの金メダルを贈呈させて頂きました。

いきあたりばったりではありましたが、専門家が行う夏祭りではなくスタッフが手づくりで行う夏祭りを楽しんで頂けたのではないかと自負しています。が、お手伝いして頂ける方は大歓迎ですので、来年は是非ともお手伝いをして下さい。よろしく願いいたします。（星野 敬子）

#### ◆あるケース事例から、看取りを实践

グループホーム ハナも開設2周年を迎えると、利用者の加齢に加えて『看取り』というテーマが目の前の課題となってきました。今取り組んでいることを紹介します。

ケースAさん（昭和5年生まれ。介護度1）男性

普段から口数の少ない利用者様です。現病歴は高血圧症、糖尿病、C型肝炎があり内服治療をしています。既往歴に胃癌切除、前立腺肥大がありますが、「本当に胃癌だったの」と思わせるほど、胃腸の訴えはありませんでした。

今年に入ってから、右側の腹痛の訴えがあり検便2回法実施、前立腺の腫瘍チェック、4月に胃カメラ施行等検査を行ってきました。7月に入り発熱、胸のレントゲンを撮るも異見られず、抗生剤と解熱剤で対応、8月に入り、両下肢の浮腫出現、緩和せず。8月20日から高熱（KT40度c）その後検査を進めていく中でCTの結果末期の肝臓癌と判明。家族に連絡を取り今後の対応を

検討、『看取り』を行うことにしました。

一日に一回は高熱が出ています。どのような転帰を迎えられるか予測がつかない状況ですが、スタッフ一同、最善を尽くしていきたいと思っています。（山根 香代子）

---

### ■■■ 今後の予定 ■■■

#### ■日本語プロジェクト

9月21日(日) 12:00～

料理交流会～ベトナム料理と日本料理を作ろう

於 デイサービスセンターハナの会

10月13日(日) 出石遠足

#### ■KFC研修会

10月25日(土) 13:30～15:00

「日本語学習記録簿の活用」 中間報告

於 KICC会議室

#### ■中国帰国残留邦人帰国者交流事業

10月12日(日) カラオケ大会

11月4日(火) 映画鑑賞会

#### ■デイサービスセンターハナの会

敬老会 9月13日(土)、15日(月)、16日(火)